

No. 107 2021. 12. 1

〒421-0522
 静岡県牧之原市相良 240-1
 (児童発達支援・放課後等
 デイサービス)
 つくしの家
 (生活介護事業所)
 つくしホーム
 ☎ 0548-52-2225
 事務局 52-0825
 F A X 52-1156
 e-mail:tsukushihome@
 aioros.ocn.ne.jp

つくしの家だより

HP アドレス <http://ichiyokai.sakura.ne.jp/>

一本足すと・・・

栗林 均



早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。新型コロナウイルスの感染が始まって、間もなく二年になろうとしています。中国武漢市の海鮮市場で原因不明のウイルス性肺炎の患者さんが相次いで発生しているようだ、横浜港に停泊した豪華客船内でも感染者が、テレビから流れる映像を見ながら、今何が起きているのかとても不安になったことを覚えています。でもその頃はまだ遠くで起こっていることのようにも感じていました。そのニュースが報道されてから、感染があつという間に世界中に広がりました。そして今、ワクチン接種も進む中で感染者数は少しずつ減ってきてはいますが、第6波の不安も報道され終息にはまだ時間がかかりそうです。

この間、つくしの家とつくしホームでも、それまで当たり前のように子ども達や利用者さん、ご家族の皆様と行ってきた季節ごとの行事や集まりを縮小したり中止にさせていただきました。マスクの着用や毎朝の検温、手指やおもちや、建物内の毎日の消毒も続けてきました。「3密を避けましょう」「ソーシャル・ディスタンスを」とは言われながらも、人と人との距離はなかなか保てない子ども達との生活の中で、できることをみんなで考えて続けてきました。当たり前だと思っていたことのひとつひとつは、本当はとてつもないことだったことを改めて感じた日々でもありました。ホールの中を見渡すと、こんな状況の中でも子ども達はひとつひとつの遊びや活動に本当に楽しそうに取り組んでいます。「今」という時間が子ども達にとってはとても大切な時間なんだろうなと思っています。

以前読んだ本の中にこんな文章が載っていました。紹介させていただきます。「保育園に三歳の子どもを預けて、仕事を再開したお母さんがこんな話をしてくれました。ある日、仕事の都合でお迎えの時間が遅くなり、息を切らして保育園に飛び込んだら、自分の子どもだけがポツンとひとり残っています。その様子を見たら、子どもに申しわけなくて涙が止まらなくなってしまう、彼女は「ごめんね。遅くなってごめんね」と何度も謝りました。ところが、それを見ていたベテランの保育士さんに「お母さん、「ごめんね」ではなく、「待っていてくれて、ありがとう」と言ってあげてください。待っていてくれたことをほめてあげてください」と言われたのだそうです。きっと、いつも仕事もがんばっているお母さんの様子を見ていたのでしょう。お母さんが子どもに「ごめんね」と言うのは、自分を責める気持ち「マイナスな心があるからです。それが涙が止まらないほど強い感情だったのは、お迎えに遅れたことだけじゃなくて、保育園に預けていることや、子どもといつもいっしょにいられないことをうしろめたく思っているのかもしれない。でも、子どもはそんな心をどう受け止めたらいでしょうか。子どもがお母さんから贈って欲しいのは「ごめんね」に込められたマイナスの気持ちではありません。喜び「プラスの心です。」「ありがとう」という言葉は、「ごめんね」とは逆にプラスの心がたつぷりと込められています。子どもにとっては、もっともうれいしいのは、ほめ言葉です。では、こんな場合に、「ごめんね」ではなくて、スツと「ありがとう」という気持ちになれるのはどんなお母さんでしょうか。ちゃんとした子育てをしよう、と緊張しているお母さんではなくて、逆に、自分のことを「まあまあ合格かな」と思ってい

とり残っています。その様子を見たら、子どもに申しわけなくて涙が止まらなくなってしまう、彼女は「ごめんね。遅くなってごめんね」と何度も謝りました。ところが、それを見ていたベテランの保育士さんに「お母さん、「ごめんね」ではなく、「待っていてくれて、ありがとう」と言ってあげてください。待っていてくれたことをほめてあげてください」と言われたのだそうです。きっと、いつも仕事もがんばっているお母さんの様子を見ていたのでしょう。お母さんが子どもに「ごめんね」と言うのは、自分を責める気持ち「マイナスな心があるからです。それが涙が止まらないほど強い感情だったのは、お迎えに遅れたことだけじゃなくて、保育園に預けていることや、子どもといつもいっしょにいられないことをうしろめたく思っているのかもしれない。でも、子どもはそんな心をどう受け止めたらいでしょうか。子どもがお母さんから贈って欲しいのは「ごめんね」に込められたマイナスの気持ちではありません。喜び「プラスの心です。」「ありがとう」という言葉は、「ごめんね」とは逆にプラスの心がたつぷりと込められています。子どもにとっては、もっともうれいしいのは、ほめ言葉です。では、こんな場合に、「ごめんね」ではなくて、スツと「ありがとう」という気持ちになれるのはどんなお母さんでしょうか。ちゃんとした子育てをしよう、と緊張しているお母さんではなくて、逆に、自分のことを「まあまあ合格かな」と思ってい

るお母さんのほうが自然に「ありがとう」と言えますね。働いているお母さんだけじゃありません。たとえば、毎日の子育てに疲れて、子どもを祖父母に預けてちよつと息抜きの時間をもつ、そんな時も「ごめんね」ではなくて「ありがとう」でいいのです。ちよつとした息抜きはお母さんにとって必要なことですから……。「ごめんなさい」の子育ては親が自分を責める子育てです。「ありがとう」の子育ては、自分を責めない子育てです。すると、子どもと親のあいだには、たくさんの喜びの心が交換されるようになりますよ。』……こんな文章でした。



つくしでは、子ども達のその時その時の状況や、子育てのこと、そしてこれからのことなど、お母さんやお家の方と話す時を持っています。園長室で話すのですが、子ども達はお母さんが来ているのを知っていてお部屋に入ってくることはほとんどありません。中にはちよつぴりドアを開けて顔を出すお友達もいます。後ろから来た先生に「お話してるから、もうちよつとホールで遊んでよ

うね」の声でホールに戻っていきます。一時間程話す時もあります。そんな時にお母さんにこんなことをお伝えします。『今日、ここでゆつくりとお話できたのは、お母さんが来ていることがわかっていても、お話が終わるまでホールで遊んで(待つて)いてくれたからです。ゆつくりお話ができたよ』ってことですね。よかったですね。』……。

本の中にはこんな言葉が続いていました。『喜びというプレゼントを交換するのが、子育てです。子育てというと、親から子どもへ一方的に愛情を注ぐものだと思ってしまうがちですが、じつは違うのです。子育ては、心の交流なのです。そして、子どもの情緒は、こうした感情の交流を基盤に育っています。言葉がわからなくてもコミュニケーションは始まっています。それどころか、眠っていてもプレゼントは行ったり来たりしています。スヤスヤ眠る子どもをなでながら、両親が「今日は笑った。言葉を覚えた」と楽しそうに会話をしていたら、その喜びの感情を子どもはちゃんと吸収しています。でも一生懸命に子育てしようとするあまり、子どもが差し出している喜びのプレゼントに気づかない人がいます。それは、もつたないことですよ。』……、そんな言葉が続いていました。――「マイナスに一本足すとプラスになります。何をたすか、それを考えるんですよ……」ふと、以前聞いた言葉が浮かんできました。

子どもの詩集の中に、こんな詩を見つけた。

かさが二本

「今日、雨降るから、かさ持って行きな。」

と、お母さん。

「いいよ。雨、降らないと思うもん」

うす暗い朝だったけど、

向こうの空は明るかった。

くつをはこうとして、

もう一度、電話で聞いてみた。

「雨の降る確率、七十パーセント。」

お母さんにわからないように、

こつそりかさを持って学校に行った。

帰る時、げた箱の所に、

私のかさが置いてあった。

かさが二本。

お母さんの持って来てくれた

かさをさして帰った。

もう一本は、

見つからないようにしまった。

給食が終わり、お昼休みのホール

に出てみました。ついさっきまでに

ぎやかだった子ども達も、もうお昼

寝の時間です。畳のコナーと奥の

部屋に分かれて小さな布団が並んで

います。タオルをお腹に乗せてもう

眠っている子もいます。なかなか眠

れないお友達をトントンしている職

員の姿も見えます。お昼寝をしない

お友達は、静かに机の上におもちや

を出して遊んでいます。二時になっ

たら午後の活動がはじまりますよ。

少し身体を休めましょう。毎日の何

だかほつとするような風景です。一本足すと――短い期間の子育てには、難しいこと、

悩むこと、

迷うこと、

などがた

くさんあ

ります。

これらの

壁を乗り越

越えるこ

とにこそ

生きがい

が存在し

ます。「辛

い」と思

つたら、

一呼吸し

てくださ

い。この「一(ひと)」を「辛」に

加えてください。そうすると、辛が

辛に変わります。子育ては、幸せを、

喜びをたくさん与えてくれます。明

日のわが子の姿をプラス思考で考え

て、わが子とかかわり合ってください

い……。以前、新聞の広告で見つけた

言葉も思い出しました。



この一年、子ども達と一緒に歩んできた道々、どんな最適なプレゼントの交換ができたでしょうか、そしてどんな一本を足すことができたでしょうか。ふと、そんなことを思い出しました。

今年もあたたかなクリスマスが迎えられるように……。

(一羊会理事長・つくしの家園長)

心の間(ま)

増田 隆

青い空を映す海原に白波が立ちはじめ、冷たい北風が窓をたたく季節になりました。

四月からつくしホームを利用して利用者さん達も、初めての冬を迎えようとしています。丈さんは、情緒がとても豊かになり、その時の気持ちや思いを、表情を通して伝えてくれます。笑顔でいることや声を出して笑う姿がたくさん見られるようになってきました。さりげなく近づいて、そっと手を出してタッチを求めてくれることもあります。周りの様子をしっかりと見ていて、かわりも増えてきました。蒼心さんも行動範囲が増え、紙、紐、布等色々な素材を使ってユニークな作品を作っています。周りの人に声をかけながらかわりを持つ事も増えてきました。ある日、教材庫から箱を取り出しました。一緒に開けると、中には利用者さんや職員の写真カードが入っています。ひとりひとり名前を言いながら写真を提示すると、じっと見入っています。すべてのカードを見終わると、たくさんのカードの中から一枚を取り出し、笑顔で見つめていました。誰のカードだろうと見てみ

ると、それは担当職員の顔写真ででした。蒼心さんのやさしい心が伝わってきました。友翔さんは、最初は、なかなかみんなの輪の中に入る事ができませんでしたが、今ではホールの中でテーブルにすわり、いろんな活動をしています。時には友だちと一緒に笑顔で声を出しながらダンスを踊り、一緒にラジオに耳を傾けています。ホールでみんなと過ごす時間やかかわりが少しずつ増えました。つくしホームに通い始めて一年にも満たない時期、まだまだ環境に慣れず、色んな刺激にも強く反応してしまうこともあります。お互いに知らない面もたくさんあると思います。あせらずにそれぞれのペースで過ごして欲しいと思います。



ホールに入り、廊下を歩いていると、遠くからある利用者さんが「おはよう！」と声をかけ、その後、「ねえ、来て来て」と呼んでいるんな話をしてくれず。しかし一時期は挨拶を返し、近くに行くと言話を提供してくれた事もあります。話しかけてもあまり反応がない時がありました。手を握ったり側に座ったりしますが、口数は少ないままです。私が呼ばれた時に誰かと話をしていたり、呼ぶ声に気付かずにいると大きな声で呼び続けてくれます。でも、近づくと静かになってしまいました。今とはとてもたくさん話をしてくれました。当時なぜだろうと考えましたが、ある時、その利用者さんの表情をよく見ると、呼ばれてある程度の距離まで近づくとニコッと笑い、そのあととても穏やかな笑顔になっていたように思います。何か話さなければいけない、しなければと考えていました。その方なりの「間(ま)、距離」があり、その中に呼んでいる人が入れば、それで安心できるのかなと感じました。そんな深い意味はないよ、と笑われそうですが、この「間」というのがとても大切な意味を持つ場面があります。自分の思いをうまく伝えられない人が何かの原因でとても不安になり、その思いが伝わらないと行動に出てしまう

多くの言葉をかけたり、距離を考慮しないで近づくと、余計に強化されてしまうことがあります。危険な場合を除いては、表情をうかがいながら声をかけ、間合いを考えながら対応しています。

小さな子どもの事を考えればわかりやすいかもしれませんが、知らない人と出会った時には、お母さんやお父さんの後ろにじっと隠れたり、表情が硬くなりますが、心を開き始めると心と身体両方の距離が縮まってきます。おとんでも、相手の気持ちを考えずに心に踏み込んでしまえば、関係性が崩れてしまいます。

誰かがいるとすぐにそばに駆け寄って行く人、逆に近くには寄らず、遠くからちらっと見ながら、ニコニコ笑って満足そうにしている人様々です。誰にも「間」というものがあり、決してそれは誰かが強要して縮まったり伸びたりするものではありません。相手との物理的な距離、心理的な関係、時間・感覚的な長さ、深さ：いろんな「間」があります。表面だけを見て、受身の気持ちや自分の思いだけで「間」を計ろうとせず、利用者さんそれぞれの表情や心、様子等いろんな角度から考えながら、自然で心地よい「間」を計る事を心掛けてゆきたいと思っています。

(つくしホーム 施設長)

「和咲の成長と
頑張る気持ち」
伊東奈美

和咲はお腹の中にいた時からダウン症である可能性と、心臓や腎臓の疾患を三度の胎児エコーやMRIで知らせて、心の準備や覚悟を持つ時間を私たちに与えてくれました。それだけのことを教えてくれたにもかかわらず私は生まれた直後まで、どうか違いますようにと願ってしまっていました。とても可愛くて愛おしくなればなるほど、ダウン症に産んでしまつてごめんねと和咲の顔を見るたび、夫や両親を見るたび考えるたびに涙が溢れ、入院中は泣き続けていました。この文章を考えている今も涙が溢れ出てきてしまい、乗り越えたと思っていたのに自分でも驚いています。一歳になり、こぐま教室に通い始めました。歌や手遊びが大好きで、少しでも出来るようになる私が見て欲しくて、みんなに披露し、たくさん褒められて、和咲の周りには有り難いことに笑顔でいっぱいでした。二歳から毎日通園になり、和咲は他では得難い経験や楽しい活動の中に組み込まれた細やかな指導で、家だけの生活の頃よりも大きく成長する姿を見せてくれるようになりまし。先生方は小さなひとつひとつを大切に、成長を見逃すことなく伸ばしては自信へと繋げていくってくれます。それは忍耐強さと大

きな受容の心が無いと出来ないことだと私は思います。和咲はとても怖がり、自分が出来ないと感じたことはやりたがりません。先日の運動会で、競技中に大きく滑って転んでしまいました。以前だったら、止まって俯き固まってしまうはずの息子は自分で立ち上がり、止まることなく大きくピョンとハードルを飛び越えて、滑る足元を気にしながら平均台を慎重に渡り切りゴールを指すことが出ました。それは、つくしでの毎日の運動と褒められて蓄積された息子の、自分は出来るという自信から繋がった行動でした。出来ることが増えてきて、頑張る気持ちも育つてきたと感じていたところでの出来事だったので、ひと際大きく成長し、頼もしく見えました。



つくしで得た経験や自信は、立ち上がる困難や、乗り越えなければならぬ壁に阻まれた時、立ち向かう勇氣と負けない心を支える宝物になると思います。これからも楽しい気持ちを先生や友達と共有して、共感する心を育み、達成感を感じる経験を積み上げてくれたらと思います。和咲の周りが花咲くように和らいだ笑顔で溢れますように。

(つくしの家保護者)

「翼が親不知を抜きました」
小塚雅子

翼がつくしの家にお世話になった頃は小さくて腕の中に包み込むようにして通ったことを覚えています。今年三十歳になった翼は、体重九十kg台とあの頃想像していた以上に立派に育ちました。体が成長すると共に自我もすっかりとしたものになっていき、嫌いなことは嫌いと思思表示を強烈に出すようになり、主人と私は右往左往させられることが多々あるようになりました。それは日常に生活の中では些細な事も翼にとっては重大な事のようなのです。

今年の春頃から翼は親不知に悩まされ、日々痛みからイライラを募らせていました。訪問歯科の先生からH病院の口腔外科を紹介されました。我が家の一大事です。先に書いたように病院は翼にとって嫌いな事の一つでした。私の頭の中は「どうしよう、困ったナ、連れていけるかな」でした。色々な人にサポートしてもらい、事前にお話を伺いにも行き、出来るだけのことをして臨みました。手術前検査も終わり、手術日も決まっていたのですが、検査結果で心臓が悪いことが分かり麻酔で心臓が止まる可能性があるから大病院での手術を勧められました。「ガン」の一言です。S病院を紹介され、また一から検査を受けやっぱり色々な

人にお世話になり、右往左往しながらも無事に四本一度に親不知を抜く事が出来ました。翼の親不知を抜く事に関わってくれたすべての人から感謝です。

今まで翼が生きてきた人生で何人の人達にお世話になってきたんだろうと思ひ返しました。父母の力だけでは乗り越えてはこれなかったと思います。沢山の愛情をいただいていたと思います。本当に感謝です。

また、私が心配そうな顔をしていると、「大丈夫だよ、何とかやるよ。ならなかったらその時考えればいいんだから」と言ってくれた人が居ます。その言葉で私がどれだけ楽になったか、肩の力が抜け心が軽くなった事を覚えてます。翼だけでなく私達も支えてもらってきたのだと思います。

あと何年翼と一緒に居られるかわかりませんが、精一杯の愛情をそそいでいきたいと思ひます。これから先も色々な人にお世話になりながら、主人と私と翼、そして沢山の家族と共に右往左往しながら楽しく過ごしていきたいと思ひます。

(つくしホーム保護者)



「つくしホームの
特別な運動会」
積み重ねた日々と思うこと
藤原 祐実

「新しい生活様式」での日々が始まり、もうすぐ二年…当たり前が当たり前ではないと痛感させられる毎日でした。つくしホームでの毎年の恒例行事も中止や縮小が続いています。合同運動会も例外ではなく、昨年引き続き、今年も中止となりました。運動会本番に向けて、皆で準備したり練習したり…大変なことも多いですが、同じ目標を持って皆で取り組む時間は、大人になるにつれより貴重な時間だと感じています。そんな時間を少しでも過ごせないかと、十月、つくしホームでの運動会が開催されました。例年の運動会のように開会式から始まり、限られた準備期間の中、出来る限り楽しんでもらおうと趣向を凝らした競技を行いました。利用者さんも職員も、初めてのことで戸惑うこともあったと思いますが、たくさん笑顔が見られた一日でした。その日の終わり、ある利用者さんが「先生、今日の運動会楽しかったつけ！盛り上がったつけねえ！」と声をかけてくれました。その利用者さんは、この日に限らず「楽しかった！」と必ず伝えてくれるのです。その言葉に何度助け

られてきたかと、改めて思い返ししました。

今までにない形で運動会、楽しんでもらえるように、盛り上げなきゃ、良い時間にならないと…と気負うあまり、準備不足な部分もあり職員の皆さんにもたくさん助けて頂きました。思えば、いつだって利用者さんとその保護者の方々、職員の皆さんに助けて頂き、支えられ、つくしホームでの日々を過ごしてきました。そんな日々を過ごせること、それは間違いなく、今いる利用者さんたち、保護者の方々、職員の皆さんはもちろん、今までつくしホームに関わった全ての方々のおかげです。たくさんの方々の温かな想いの積み重ねによって、このつくしホームは成り立っています。そして私は今、ここにいることができます。

どのような世の中でも、皆さんの温かい想いを大切に、大切に繋いでいけば、こんなにたくさん笑顔が見られる、笑い合える…そう信じたい。運動会でした。そして、そんな日々こそ、当たり前のようで当たり前ではない尊い日々なのだと思います。

運動会の日、改めて思い返したこの想いを忘れることなく、当たり前ではない日々を大切に過ごしていきたいと思えます。

(つくしホーム主任生活支援員)

ご挨拶

早いもので、今年もあと一ヶ月を残すのみとなりました。夏には一年遅れのオリンピック・パラリンピックが東京で開催されました。その開催中から緊急事態宣言も発出されるなど心配もされながらの開催でした。その後、ワクチン接種も進む中、少しずつ感染者数が減少してうれしく思いますが、第6波への不安も感じながら、日々の生活では消毒や体温測定、マスクの着用などまだ気をぬかず続けていきたいと思っています。また、温暖化の影響でしょうか、台風や洪水、土砂崩れなどの大きな災害も各地で発生しています。被害に遭われた皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、一日も早く復旧されますよう心よりお祈り申し上げます。

「人生を100だとしたら、悲しいときはしくしく泣いて4×9＝36。うれしいときはハハッと笑って8×8＝64。足したら全部で100になる。人生は幸せのほうが多いのだ」という言葉です。とても心に残りました。悲しいことがあったけどその分、いやそれ以上のうれしいことが待っているのだなと思ひ、心が軽くなりました。この言葉を見つけて、私は悲しいことがあっても気にしないでうれしい出来事が起こるのを待とうと思うようになりました。たった一文を読むだけで心が軽くなる言葉は、私たちの支えだと改めて気付きました。…、こんな文章でした。

つくしの家とつくしホーム、隣り合う二つの園舎の窓からは、今日もみんなの楽しそうな歌や笑い声が聞こえています。こんな小さなことが本当はとても幸せなことのように感じました。

後援会の皆様方をはじめ、ここを応援して下さる方々には、今後とも変わらぬご支援をお願いしご挨拶とさせていただきます。

取扱金融機関のご案内

三菱UFJ銀行静岡支店
普通 4254072
口座名 つくしの家後援会
(以下同じ)
静岡銀行相良支店
普通 145949
島田掛川信用金庫相良支店
(旧島田信用金庫) 普通 134511

郵便 振替
00820-5-57983
口座名 心身障害児通園施設
つくしの家後援会

つばき

◆つくしの家のあゆみ

五月 ◎避難訓練で「地震↓津波」を想定し、近くのKブロック津波避難タワーまでみんなで走って避難をしました。◎市内のパチンコ店「パオ牧之原店」様よりお菓子をたくさんいただきました。◎今年度も美容師の加藤さんが子ども達の髪をカットしに来て下さっています。◎県からマスクとビニール手袋をいただきました。◎市内の稲本さんと森さんが園庭の草刈りをして下さいました。

六月 ◎一週間の希望参観日を計画し、子ども達の普段の活動の様子を見ていただきました。◎市内の就労支援事業所で働いている卒園児の杉本優弥くんが、今年もお給料で子ども達にお菓子を買って届けて下さいました。◎東京都町田市の川井様からオレンジジュースが届きました。いつもありがとうございます。◎牧之原市花の会様より、オリンピックの聖火リレーで沿道に飾ったプランターのお花をいただきました。

七月 ◎卒園児の福代優介くんのお宅で今年も七夕のスイカをいただきました。◎消防署と市の女性消防隊の皆さんが来て下さり花火教室を行いました。◎市内の山下オート商会様より手指消毒用アルコールジェル

をいただきました。◎つくしホームと合同で火災を想定した防災（避難）訓練を行いました。

八月 ◎市内の永田さん、榛葉さん、池ノ谷さん、八木さん、庄司さんがアルミ缶を届けて下さいました。

九月 ◎第一土曜日の開園日にボランティアで御前崎市にお住いのオリベイラさんが通訳として来て下さっています。◎今年もおたのしみ会を子ども達だけで行いました。盆踊り、くじ引き、ヨーヨー釣り、お化け屋敷とエアートランポリンを楽しみました。お昼のデザートがプラレールに乗って登場。楽しかったです。

十月 ◎民生委員の皆さんが園庭と園舎周りの草刈りをして下さいました。◎ごま教室の職員に森田真理子先生が加わりました。牧之原市の小・中学校の先生五名が三年めの研修で一日子ども達と過ごし話し合いの時を持ちました。◎ちいさな運動会を津波避難タワー下の人工芝広場で行いました。みんないっぱい頑張ったね。◎おはなし会で中川さんが来て下さいました。楽しかったです。

十一月 ◎ごま教室職員として十一年半の間勤務して下さいました藤野倫子先生が退職されました。

ピアノや手遊びがとっても楽しかったです。ありがとうございます。



絵：はるま

◆つくしホームから

5月 ☆保護者の方々が敷地内の草刈りをしてくださいました。☆市内のスーパークラックさん所属の移動スパー「とくし丸」さんに来てもらいました。利用者さんたちは好きなお菓子やパン、プリン、生野菜（！）等の食品を選んで買物を楽しみ、おやつ時間に食べました。☆民生委員さんお2人が、園庭の草刈りをしてくださいました。特別な機械も使って隅々まできれいにしてくださいました。ありがとうございます。

6月 ☆牧之原市花の会様より、聖火リレーの際に沿道に飾られたプラレールをいただきました。

7月 ☆七夕祭りを行いました。七夕にまつわるお話や歌、「夏ビンゴ」を楽しみました。保護者の方々からは、今年もたくさんのお供え物をいただきました。☆残念ながら阿佐ヶ谷教会の皆さんは来訪が見送られましたが、利用者さんと職員で夏祭りを行い、スイカ割りならぬ「紙風船割りリレー」やダンス、おやつタイムを楽しみました。☆牧之原市よりホールのエアコンの交換・新設、山下オート様よりアルコールジェル、今年度のサマーショートボランティア参加者の方々より手作の簡易防護服をいただきました。温かいお心遣いに心より感謝申し上げます。

8月 ☆吉田町の大石さんがサマーショートボランティア活動を行いました。

した。窓の清掃と製作をしていただきました。

9月 ☆星いきいき社会福祉財団様より、折り畳み式リヤカーの助成を受けました。大切にに使わせていただきます。ありがとうございます。

10月 ☆民生委員さんが敷地内の草刈りをして下さいました。とてもきれいになりました。☆合同運動会は中止となりましたが、つくしホームで運動会を行いました。開会式から始まり、趣向を凝らした2つの競技や、2週間練習した踊りを楽しみました。昼食には昨年大好評だったハンバーガー等を注文、皆でおいしくいただきました。☆お楽しみ会ではハロウィン仕様のポッチャを行いました。とても盛り上がりました。

編集後記

新しい生活様式の中で、マスクを着けることが当たり前になりました。小さな子ども達は、おとなの顔の表情や話し方を見たり真似をしながら育ちます。この時期には特に大切なスキンシップも取りにくくなり、心への影響が心配になります。一日も早く感染症が終息することを願います。寒くなりますが、皆様どうぞお身体を大切にお過ごしください。

